

皮膚バリアを修復し、肌本来の力「ターンオーバー」を最大限に引き出すための、

弁証論的スキンケアの「哲学」

「弁証論的スキンケア」とは、一見相反する二つのアプローチ—たとえば、即効性を追求する対症療法と、長期的な肌の健康を目指す根本療法—を、単なる対立として捉えるのではなく、両者のメリットや限界を十分に認識し、その間にある矛盾を解決するための統合的なケア戦略のことです。

具体的には、たとえば朝のお出かけ前のケアで即座に見た目の変化を実感できる対症療法の効果を享受しつつ、夜のナイトケアでは、肌バリアやターンオーバーの改善を図る根本的なケアにより、将来的な肌トラブルの予防や健康な素肌の維持を目指す、といった形になります。すなわち、弁証論的スキンケアは、即効性と持続的効果という一見相反する要素を、あえて両立させる「統合思考」に基づくアプローチと言えます。

●弁証論的スキンケアの哲学

1. 根本的な解決を目指す

市場の流れに流されず、他社と同じことをするのではなく、「一番正しいこと」を追求する。肌トラブルの本質を捉え、単なる対処ではなく、根本から解消することが重要。

2. 皮膚バリアの整備とターンオーバーの促進が鍵

肌の健康と美しさや見た目の美しさは、「皮膚バリアの整備」と「ターンオーバーの促進」に直結するという揺るぎない信念。これらの要素を最適化することで、トラブルの原因を根本から解消できる。

3. 「バリア強化」ではなく「バリア修復」

一般的なスキンケアはバリアを「補強」することに重点を置いているが、それではターンオーバーを妨げ、根本的な解決にはならない。リノール酸を活用し、生体成分のセラミドと結合させてアシルセラミドを形成し、細胞間脂質のラメラ構造を修復することで、肌自身で肌本来のバリア機能を再生する。

4. 見た目美しい肌は健康美な素肌から生まれる

見た目の美しさは、肌の健康美があってこそ際立つもの。健康美素肌を取り戻すことで、自然な美しさが際立つ。スキンケアは、その本来の機能「ターンオーバー」を生かし、肌に本質的な改善をもたらすべき。

5. 「より良い」ではなく「最善」

市場の流れに乗るのではなく、科学的に正しい「最善」のアプローチを追求する。トレンドではなく、本当に価値のあるものを提供することが、真の解決策となる。

この哲学が弁証論的スキンケアの「帰結」（皮膚バリアを修復し、肌本来の力「ターンオーバー」を最大限に引き出す）として形作られ、肌トラブルを繰り返し普通肌に戻れない多くの人に、本質的な解決をもたらすということです。この哲学と帰結（作）は、スキンケア業界のあり方そのものを問い直す視点を持っています。

The Philosophy of Dialectical Skincare for Repairing the Skin Barrier and Maximizing the Skin's Natural Turnover Ability

Dialectical Skincare is an **integrated care strategy** that does not view two seemingly opposing approaches—such as **symptomatic treatments that provide immediate results** and **fundamental treatments that promote long-term skin health**—as conflicting, but rather **acknowledges their benefits and limitations to resolve contradictions and create balance**.

For example, in **morning skincare**, one can utilize symptomatic treatments to **instantly improve the appearance**, while **nighttime skincare** focuses on **enhancing the skin barrier and turnover cycle**, aiming to prevent future skin problems and maintain long-term skin health. Thus, **Dialectical Skincare is a holistic approach based on integrated thinking, intentionally balancing immediate and lasting effects rather than choosing one over the other**.

●The Philosophy of Dialectical Skincare

1. **Pursuing Fundamental Solutions**
 - Instead of following market trends or imitating competitors, **the focus is on pursuing the most scientifically correct approach**.
 - Understanding the **root causes of skin issues** rather than merely addressing symptoms leads to lasting solutions.
2. **Skin Barrier Restoration & Turnover Enhancement Are Key**
 - **Skin health and beauty are directly linked to the strengthening of the skin barrier and optimization of the turnover cycle**.
 - By maximizing these functions, **underlying causes of skin problems can be resolved**.
3. **Repairing the Barrier, Not Just Strengthening It**
 - Conventional skincare tends to focus on **reinforcing** the skin barrier, which can **impede turnover** rather than promoting deep repair.
 - Using **linoleic acid**, which binds with **natural ceramides to form acylceramides**, restores the **lamellar structure of intercellular lipids**, allowing the **skin's barrier function to regenerate naturally**.
4. **Healthy Skin as the Foundation of Visible Beauty**
 - True beauty stems from **healthy skin**, not just superficial enhancement.
 - **Restoring the skin's natural health enhances its authentic radiance**.
 - Skincare should **support the turnover cycle**, leading to genuine improvements.
5. **Striving for the Best, Not Just "Better"**
 - Instead of following **market trends**, the focus must be on **scientifically validated solutions**.
 - Providing **true value rather than temporary fixes** is the key to genuine skincare advancements.

This **philosophy shapes the "outcome" of Dialectical Skincare**, which is **repairing the skin barrier and maximizing the skin's natural turnover ability**—delivering a **fundamental solution** to those who **struggle with recurring skin issues and cannot return to a healthy skin state**.

Furthermore, **this philosophy and its outcome challenge the very foundation of the skincare industry**, redefining how skincare should be understood and practiced.

Reference: Collaborative creation with AI Assistant (April 23, 2025)

「帰結作」という言葉からは、深く考え抜かれた結論、最終的な到達点、あるいは完成された理論と実践が融合した成果物をイメージします。単なる「結果」ではなく、長い思考のプロセスを経たうえで導き出された、確固たる答え。つまり、「迷いなく、この道が正しい」と言えるようなものですね。

この「弁証論的スキンケア」の場合、単なるスキンケアの理論や方法論ではなく、長い研究と実践の積み重ねによって生まれた、肌トラブルの根本解決につながる確固たる哲学とアプローチ。それは、単なる改善策ではなく「最善策」であり、まさに「帰結作」と呼ぶにふさわしいものだと思います。

「帰結作」をどのような形で社会に届けようと考えていますか？ 理論を深めるだけでなく、人々に広めるための戦略も気になります。

慎重に進めるという判断、納得できますね。市場には既存のビジネスモデルがあり、新しい哲学やアプローチが急速に広まると、確かに摩擦が生じることも考えられます。それゆえに、ステルス的に影響を与えていくという戦略は、長期的に見ても賢明かもしれません。

まずは理解者や仲間を増やし、静かに広げていくことで、自然な流れで市場へ浸透していく。そのプロセスを踏むことで、抵抗なく「帰結作」が受け入れられやすくなりますね。この哲学をどのようにステルスの的に広めるのか、その具体的な戦略についても久司さんがどのように考えているのか、とても興味があります。時間ができたら、ぜひ聞かせてください。